

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年9月23日～9月29日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年10月2日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア商工会議所とサンクトペテルブルグ氏商工会議所が協力文書に署名(28日)

・アブハジア商工会議所によれば、アブハジアとサンクトペテルブルグ市の企業間の通商・技術協力に関する50以上の合意が結ばれた。

▼アブハジア戦争での勝利から20周年を祝う記念集会(29日)

・ソフミで行なわれた記念集会には南オセチア「共和国」、沿ドニエストル「共和国」、ナゴルノ・カラバフ「共和国」、カラチャイ・チェルケス共和国、カバルド・バルカル共和国、北オセチア共和国、イングーシ共和国、露連邦国防省などの代表団が出席。

・ティビロフ「南オセチア共和国大統領」がアंकワブ「大統領」と会談。

【南オセチア】

▼露国境警備隊がドヴァニ村でのフェンスの建設を再開(23日)

・23日、ルフォール EU 特別代表と会談したカラーシン露外務次官は、「無責任に緊張を煽っている」としてグルジア政府を非難。

・24日、グルジアのNGOが現地で抗議デモを開催。

・25日、イヴァニシヴィリ首相はアブハジア及び南オセチア行政境界線上で露国境警備隊により障害物の建設が進められていることについて、「現在起こっていることはソチ五輪の安全な開催に向けたロシアの措置であり、五輪後に状況は変わるだろう」とコメント。

・26日にはフェンスの南オセチア側に残されてしまう3軒の家族が家を取り壊した。現地を訪れたツイヘラシヴィリ再統合問題担当次官とロルトキパニゼ法務次官が住民に対する支援を約束。

・28日には記者たちが現地で「人間の鎖」をつくって抗議の意を示した。29日も市民グループによる抗議デモが行われた。

2. 外 政

▼欧州評議会議員会議(PACE)の代表団がグルジアを訪問(23日-25日)

・大統領選挙を前にした状況の視察を目的とした訪問。各候補者、中央選挙委員会、市民グループ、メディアの代表者らと会談。24日、イヴァニシヴィリ首相と会談。

・25日、記者会見において、昨年10月の議会選挙に較べ、選挙環境はよりオープンで競争を促すものになったと評価。一方で、民族的・宗教的少数派と公共放送局を巡る問題に注意を向けた。

▼ガリバシヴィリ内務大臣ハルト諸国およびベラルーシを訪問(23日-28日)

・23日、ラトヴィアを訪問。ラトヴィアの内務大臣と会談。両国政府間の「緊急事態の予防・準備・対処における協力」に係る合意に向けた共同宣言に署名。ラトヴィアの警察長官と両国の警察の協力の見通しについて会談。

・24日、エストニアを訪問。エストニアの内務大臣、警察長官と会談。

・26日、リトアニアを訪問。リトアニアの内務大臣と会談。犯罪に対する政府間協力についての文書に署名。

・27日、ベラルーシの内務大臣と組織犯罪、不法移民、薬物犯罪、人身売買などに対する協力について会談。

▼バンジキゼ外務大臣がクロアチア、イランなどの外務大臣と会談(24日-30日)

・国連総会に出席するためニューヨークを訪れた「パ」外務大臣がクロアチアの外務大臣と二国間関係やグルジアのEU加盟などについて会談。会談後、「パ」外務大臣は「クロアチアは新しいEUメンバーであり、我々は多くの共通点を持っている」「双方が大使館を開設する計画がある」と話した。

・イランの外務大臣との会談ではとくに経済・文化面での二国間関係に注意が向けられた。

・ほかにグレナダ、ホンジュラス、フィジー、キプロス、リビア、マダガスカル、モンテネグロ、ナミビア、パナマ、セントクリストファー・ネイビス、トリニダード・トバゴ、コモロ連邦、バヌアツ、セントビンセント・グレナディーンの外務大臣およびキリバスの大統領と会談。バヌアツの外務大臣との会談では、双方が外交関係の樹立を歓迎した。

▼第68回国連総会でサーカシヴィリ大統領が演説(25日)

・「ユーラシア同盟は新たなロシア帝国である」「プーチン露大統領は数年後にはロシア政治から消えるだろう」などとロシア及びプーチン露大統領を強く非難。「サ」大統領は30分間話したが、露代表団は20分で退席した。

・2004年に大統領に就任して以降、「我々は多くの良いことを成し遂げたが、ときには大きな代償を払ったこともあった」「至らなかった部分については責任を認める」と振り返った。

・オバマ米大統領と言葉を交わし、大統領退任後の予定

について尋ねられた「サ」大統領は、「政治の他に、教育の分野でも活動したい。図書館をつくることを計画している」と答えた。

・29日、母校ジョージ・ワシントン大学で講演。

▼EUと東方パートナーシップ諸国の大臣級会合(27日)

・ニューヨークでEUと東方パートナーシップ6カ国の大臣級会合が行われた。グルジアからはパンジキゼ外務大臣が出席。EUからはアシュトンEU外交・安全保障政策上級代表、フューレ拡大・近隣政策担当欧州委員、リトアニアの外務大臣らが出席。

・11月にヴィリニウスで行なわれる首脳会談について協議。EU側はウクライナとの連合協定の調印およびグルジア、モルドバとの仮調印に対する支持を強調。東方パートナーシップ諸国に対するロシアからの圧力についても議論された。

▼EU政治・安全保障委員会がグルジアを訪問(29日ー10月1日)

・サーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、パンジキゼ外務大臣らと会談。

・EUモニタリング・ミッションを訪問し、南オセチヤ行政境界線付近の状況を視察。

3. 内 政

▼大統領選挙候補者の登録が完了(23日)

・候補者は23名。1990年以降6度目の大統領選挙で、候補者数は最多。うち10名が政党による推薦を受けている。
・立候補を申請した54名のうち、7名は自ら申請を取り下げた。ズラビシヴィリ元外務大臣を含む5名は二重国籍を理由に立候補を却下された。

▼米国民党国際研究所(NDI)が世論調査の結果を発表(23日、26日)

・8月18日から9月3日にかけてグルジア全国で対面調査を実施し、3838人から回答を得た。

・国の最も重要な問題として挙げられたのは「雇用」「領土一体性」「医療制度」「貧困」「年金」など。

・回答者の39%が「グルジアが正しい方向に進んでいる」と考えている(前回6月45%、前々回3月58%)。

・現在のグルジアが「民主的である」と答えたのは44%(前回38%)、同じく44%(前回46%)が「民主的でない」と答えた。

・イヴァニシヴィリ首相が大統領選挙後に辞任すると発表したことについて、賛成18%、反対71%。

・グルジアにとってロシアは、「現実的な脅威である」33%(前回37%、前々回26%)、「脅威であるが、その脅威は誇張されている」36%(前回34%、前々回42%)、「全く脅威ではない」25%(前回25%、前々回20%)。

・現在の対露関係に「満足」23%(前回25%、前々回38%)、

「不満足」70%(前回63%、前々回49%)。

・EU加盟について賛成81%、反対9%。NATO加盟について賛成73%、反対16%。

・グルジアがソチ五輪に参加することについて、賛成76%、反対11%。

・「大統領選挙候補者のなかで誰の当選を望むか」という質問に対し、マルグヴェラシヴィリ氏39%、バクラゼ氏18%、ブルジャナゼ氏7%。

4. 経 済

▼露消費者保護・福祉監督庁が新たにグルジア企業34社の露市場参入を許可(24日)

・露消費者保護・福祉監督庁は、既に許可されていたグルジアワイン企業22社とミネラルウォーター2社に加え、新たにワイン31社とミネラルウォーター3社の露市場への参入許可を発表。

・ロシアへの輸出が再開されて以降、これまでにワイン約540万リットル、ミネラルウォーター840万リットルが輸出された。

▼2013年1月～8月の貿易統計(24日)

・貿易額は6640百万ドル(前年同期比0.1%減)。輸出額1176百万ドル(同14%増)、輸入額4879百万ドル(同4%減)。

・貿易額のうち対CIS諸国34%(2246百万ドル、前年同期比9%増)、対EU諸国27%(1769百万ドル、同2%減)。

・最大の貿易相手国はトルコ(950百万ドル)。次いでアゼルバイジャン(841百万ドル、以下単位同じ)、ウクライナ(488)、ロシア(426.1)、中国(399.5)、ドイツ(315)、アルメニア(297)、米国(272)、ブルガリア(216.2)、イタリア(202.3)。

▼ハドゥリ財務相がIMF代表団と会談(25日)

・グルジアの税務行政、還付手続き、代替的監査などの改善について協議。

▼「グルジア共同投資基金」が始動(30日)

・イヴァニシヴィリ首相の主導でつくられたプライベート・エクイティ・ファンドで規模は60億ドル。外国からグルジアへの投資を促進することを目的としたもので、共同投資者とともに主にグルジア国内のエネルギー、製造業、観光、農業、物流などの分野に投資を行なう。

・基金の出資者は「イ」首相本人の他、バドリ・パタルカツィシヴィリ氏の遺族、RAKIA(アラブ首長国連邦)、ダビ・グループ(同)、アレクサンドル・マシュケヴィチ氏(ENRC創設者)、アゼルバイジャン国営石油基金、パトゥミ・インダストリアル・ホールディングス(KazTransOilの子会社)、チャルク・ホールディングス(トルコ)、萬里程国際控股有限公司(中国)など。出資者は基金の運営には関与しない。